

●2月4日に実施された第40回木津川マラソン 2400人の参加 無事故で大成功

42年前、山城地域で若者たちが500人の参加で宇治市の太陽が丘陵上競技場をメイン会場として宇治川沿いを駆け抜けた南山城新春マラソンは5年間開かれました。そして宇治市の都計道路と国鉄踏切などの使用で危険性の増大から、京田辺市の培良中学へメイン会場を変更して木津川サイクリングコースで取り組みました。各地で制限時間が設定されていて死亡事故が各大会で起きていました。マラソンは自分との戦いなのだから制限時間は設定しないで、「誰でも いつでもランナーが主人公」と考え、ランナーのための大会として、「制限時間のない全国的に唯一の大会」としてスタッフの方々の協力のもとに開催され最高6000人の参加者をえてきました。スタッフの高齢化とコロナ渦の元で3年目の再開で、今回はこの特徴を取りはらっての大会になりました。今回は参加者が減少しましたが無事故で大成功しました。全コースで川の堤防工事が終了し、安心できるものでした。大会を支えていただいたスタッフの皆さん本当にご苦労様でした。福知山マラソンや京都マラソンは行政がバックアップしていますが、市民の有志によって開催されていて、一番長い伝統を持って、そして無事故で成功させてきているのは、本当に立派で素晴らしいことです。

●2月4日地域説明会が八幡市さくらであい館で40人の参加者を迎えました。

今回は新しく「魚は何処にいるのかな」のコーナーの展示を追加しました。そして水質の程度によって住む魚の違いも示しました。お話は現職の河川レンジャー議長を務めていただいております南良靖雄さんが淀川事務所から呼びかけて5年目になる淀川水系の一斉ごみ清掃運動についての報告と今年のお話についてお話をいただきました。異常気象の下で河川氾濫事故が絶え間なく引き起こされている時勢の元、川活動の大切さの認識と川は暮らしの中を流れるということ、そして山は海の恋人であり川は山と海をむすぶ糸だと強調されました。拝聴いただいた皆さんはうなずきながら熱心に聞き入っていただきました。里山の会からは金田徹 昆虫担当、太田敏之 理事、篠原真知子 理事、寺村が出席して成功させました。

●2月4日京都大学宇治川防災センター（ラボラトリー）では中聖牛の最後の仕上げの作業＝竹蛇籠に石詰め作業が成功しました。2015年から始められて竹蛇籠の製作講習会で木津川に竹蛇籠が合計171本が製作設置されて、中聖牛5群・16基で利用されています。そのうち16本が新しい魚の住みに利用しました。これまでの製作活動で里山の会の多くのスタッフが経験を積み自力で中聖牛を組み上げられるところまで来ました。2022年度では世界遺産に指定されている嵐山で渡月橋の下流で竹蛇籠を設置出来ました。世界から来られる観光客の方々の目に留まればと思っています。また京都大学の宇治川防災研究所の表玄関にモデルになる中聖牛を一基作り上げることができて、川に行かなくても実物を直接見学していただけるように作り上げました。できるだけ多くの方々にご覧になっていただきたいものです。



●フィランソロピー協会から2023年度の活動助成金を里山の会に提供するので計画書の提示をしていただきたいとご案内が届きました。

2022 年度の援助申請内容

- ① 河川の清掃と親子花見乗船体
- ② カヌー体験
- ③ 里山農園体験
- ④ イタセンパラの復活をめざす活動

2023 年度の申請案

- ① 里山農園活動
- ② 木津川での活動
- ③ 親子花見乗船体験
- ④ イタセンパラの復活を目指す活動

今回 2023 年度については上記右の活動を申請するつもりです。まだ里山の会として次年度の活動計画は確立決定ができていませんが、こんな計画を提案していくつもりです。多くの会員の皆様のご支援をよろしくお願いいたします。

●2月11日(土) 13:00 地域説明会を「京田辺市南部まちづくりセンター」にて開催します

展示物は山城の歴史農地「古代の歴史」の部分、魚は何処にいるのか、木津川の草花4月5月の花、イタセンパラの生態、里山農園の紹介を展示いたします。また河川レンジャーとして木津川「川ガキ団」60人を組織してアドバイザーとして活動を指導している田中美知世さんからお話をいただきます。今回のお話の内容は現職のレンジャーさんにも多くを学べる経験豊かな活動報告をお願いしています。また地域からの期待に応えられるものは何かについてともに話し合える題材にもなるものでもあります。活動をどのように進めればいいのかに答えられる豊かなものがあります。こぞってご参加をお願いいたします。

●里山農園からの連絡

炭焼き体験を実行しようか中止かと迷っています。炭焼き窯小屋の周囲の枯草は大村理事長が半分ほど刈り取って煙突の周囲部分は綺麗になりました。火をつけても大丈夫になってきました。大仕事の原木の用意は木津川出張所からの提供が確定しています。あとは炭窯に詰め込み作業と着火準備と火の守り、そして空気調整となります。最も重労働の原木伐採ができていますので、容易にできる誰でもが取り組める作業です。皆さんの声で冬の山仕事として取り組んでみませんか。皆さんの声で実行しようかと迷っています。日程などはご相談いたします。里山の会事務所へご返答をお寄せください。FAX:0774-64-4183 メール:fddb257@yahoo.co.jp

●2023 年度の里山の会の活動にご提案を

次年度の活動をまもなく決定することになります。これまでご参加いただきました皆様にお願ひがあります。2023 年度はどのように活動内容を変化発展させるのが良いのか、また新しい活動を取り入れるべきかなどお気づきのことをご対案下さい。1年間の活動計画を作り上げますのでご提案をお願いします。郵送でもメールでもメモ書きを事務所に届けていただきたいと思います。どんな思い付きでも結構ですのでお願いいたします。

●大寒が過ぎ、節分が過ぎ、立春も過ぎ、寒さも少しずつ緩み始めました。

新しい芽吹きが始まろうとしてきました。里山の会では年度末で木津川希少種の植物の調査管理業務の刈草収集に集中して取り組んでいます。八幡市の管理地ではイヌナズナが芽を出すのはいつごろになるでしょうか。ぜひ一番の開花報告をいただきたいものです。続いてホトケノザでしょうか。すぐにアマナが続くでしょう木津川堤防を散歩されるとき足元をしっかりと見て何か綺麗な花が咲いていたら写真をとってみてください。そして里山の会にご連絡をお願いします。現

在は寒さ厳しい時期ですが、寒風吹きすさぶ堤防でも草たちは低くなって精一杯に葉を広げて（ロゼット状）頑張っていますよ。きっとその姿から元気をもらうことでしょう。

●小川芳也さんの松江通信 No. 19

なお、気象庁が観測を開始して以降では1971年（昭和46年）の積雪100cmが松江で1番多く積もった記録、1963年（昭和38年）には豪雪で宍道湖が凍結したという記録があるそうです。今よりも寒かったのかもしれませんがね。松江高専では、前日23日夕方にJR山陰本線の計画運休を受けて、翌日が休校となりましたが運休が続いたため24・25日が休校、26日は多くの雪が残っていたので授業再開は午後からでしたが、路線によっては運休していたこともあり多くの学生が登校できないようでした。積雪は最も積もったときで約50cm、10日間ほど白銀の世界になっていたように感じます。車がスタックしたり左右に滑ったりとドキドキしながらの運転が続いていましたが「無理はしない」と言い聞かせて大きなトラブルも無く過ごせました。期末試験直前でしたが、雪合戦や雪だるまを作ったりして気分転換をしている学生たちの明るさに元気をもらいました。次週は土砂のお話にも…

●太田敏之さんの小笠原旅行日記 ～5日目 2022年11月30日 水曜日（父島最終日）～

この日はおが丸パックのオプションで予約しておいたクルージング観光の日です。受付に行く前にお店でギョサンを購入しました。ギョサンは漁業用サンダルで、船上でも滑りにくいサンダルで、小笠原でブレイクしたサンダルですが、生産地は奈良県です。クルージング観光の受付が終わるとウエットスーツを着用し、マスク、足ヒレ、シュノーケルの三点セットを借用します。この日のクルージング観光の乗船者は11人で青灯台の棧橋から大型クルーザーに乗って、まずはホエールウォッチングです。ホエールウォッチングにはまだ早い時期ですが、今年11月25日に初めてザトウクジラが発見され、昨日2頭目が発見されたそうです。出港してしばらくすると鯨のブロー（潮吹き）が遠くに見え、近づきましたが海中に潜った鯨はなかなか上がって来ません。結局1時間ちかくいましたが遠くにブローと尾ビレが見ただけです。イルカと一緒に泳ぐイルカスイムを目的に南端の南島まで移動しましたがイルカには遭遇できませんでした。南島は小笠原一の観光スポットですが、この時期は自然保護のため上陸することが禁止されています。泳いで上陸はできるようですが、この日は波が少しあったので岩の間からきれいな砂浜を眺めるだけに終わりました。でも周囲の岩を含めとても美しい場所です。次に父島の北端、兄島の近くでシュノーケリングです。ここは海中公園に指定されていて多くの美しい魚が見られる場所で、まるで竜宮城のような感じです。ここで30分ほどシュノーケリングを楽しみ、イルカ情報があった南島付近にまた戻りましたがイルカには遭遇できませんでした。お昼は、まだ食べてなかった島寿司も入った小笠原寿司を食べることにしました。島寿司はサワラなど白身の魚を、醤油やみりんなどでづけにした握り寿司ですが、ここの寿司屋では高級魚のアカハタだそうです。カメ肉のにぎりも入っていて、これも食しました。帰りのおがさわら丸は3時の出航で、東京の竹芝棧橋到着は翌日の午後3時です。